

全国大学版画展：作品の梱包方法について

・額縁箱の種類

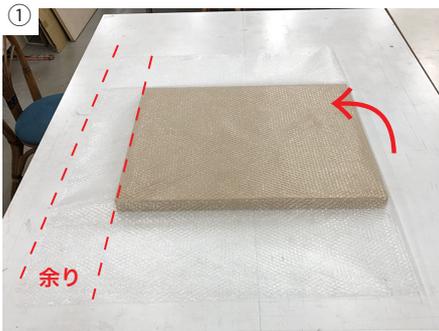


↑さし箱

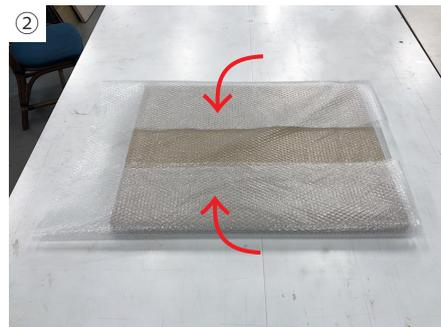
↑かぶせ箱

額縁箱は主に「さし箱」と「かぶせ箱」の2種類があります。
箱の種類に応じて次のように梱包してください。

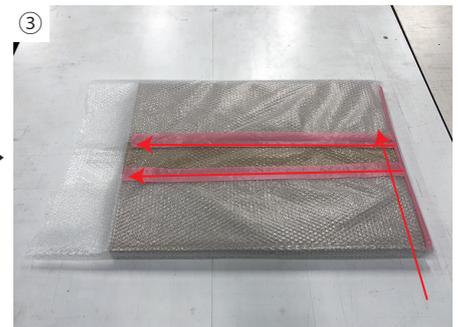
・さし箱の場合（封筒型の梱包）



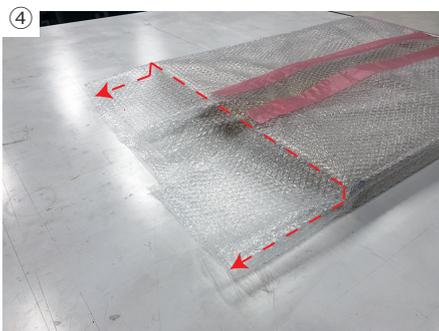
① 緩衝材を箱の長辺の二倍+ α (二つ折りにして余りができる程度)の長さで切り、箱の底(口の反対)側から折り返す。



② 緩衝材を横から折り返す。



③ 折り返した辺と、箱の底の辺を養生テープで留める。



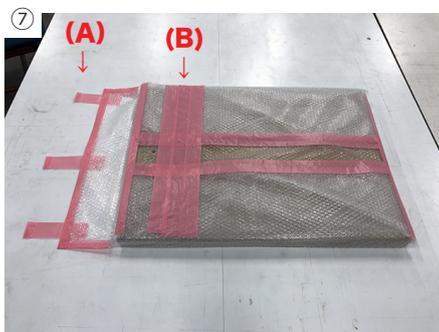
④ 封筒の口になるように、余分な緩衝材を切り取る。



⑤ 切り取った様子。



⑥ 緩衝材の切り口を養生テープで補強する。



⑦ フタを養生テープでしっかり留めるか、フタにつまみを作った養生テープ(A)を数カ所つけ、留める場所をあらかじめ養生テープで補強し(B) 開け閉めできるようにする。
(写真は点留めの場合)



⑧ 点留めで閉めた様子。

完成



額装箱を緩衝材から出さずに作品の出し入れができる。

POINT

- ・ 緩衝材を二重にして梱包すると強度が増し、箱の出し入れがしやすくなります。
- ・ 緩衝材のツルツルの面(凸がない側)を内側にして梱包するとさらに箱の出し入れがしやすくなります。

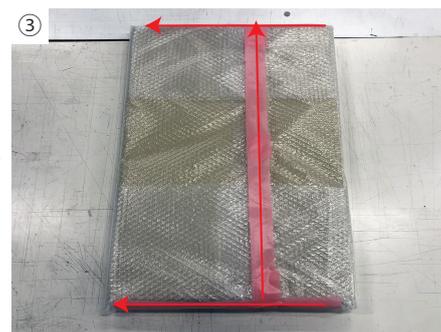
・かぶせ箱の場合（包む梱包）



①箱を包める大きさに緩衝材を切る。



②緩衝材を縦横から折り畳む。



③養生テープでしっかり留めるか、つまみを作った養生テープで数カ所留める。

・梱包のお願い

- ・箱と緩衝材の両方に「**大学名**」・「**氏名**」を明記するようにしてください。
(梱包材がどの作品のものかわかりやすくするため。)
- ・テープは粘着力のある養生テープを使い、ガムテープはできるだけ使わないようにしてください。
(やむを得ず緩衝材を分解しなくてはいけなくなった場合布ガムテープが使われていると緩衝材が破け、修復が困難になります。)
- ・額装箱のない作品の場合、段ボールなどを張り合わせて作品を包むのではなく「**さし箱**」か「**かぶせ箱**」どちらかの形態の箱を自作して梱包してください。
(現場で開梱・梱包作業を行う人のことを考えた梱包を心掛けてください。)
- ・開梱の際に指示書が必要になるような梱包方法は避けてください。
- ・複数の学生の作品を一つの箱に詰めて梱包する場合、できる限り**近いサイズ**の作品だけをまとめてください。
(異なるサイズの作品を一つの箱に詰めると梱包の際にどの緩衝材をどこに使うのかわからなくなります。)